

韓国・京畿道（キョンギド）派遣職員からのレポート 第4回 ～クレアソウルセミナーについて～

皆さんこんにちは。韓国では、私が日本で経験したことの無いほどの寒さが続いています。韓国では11月下旬に初雪が降りました。私自身、11月に雪を見たのは初めての経験です。



11/24(土)自宅前にて

さて、私が今派遣されている京畿道庁では、日本人は私一人しかいませんが、韓国には、私のように日本から韓国へ駐在している地方公務員の方々がたくさんいます。

例えば、私が現在住んでおり、京畿道の道庁所在地である水原市(スウォン)には、姉妹都市提携を結んでいる北海道の旭川市から交流職員の方が来ています。また、京畿道と接し、韓国の中部に位置する忠清北道(チュンチョンブクト)には、同じく姉妹都市提携を結んでいる山梨県から交流職員の方が来ています。

第4回目となる今回のレポートでは、私のように、韓国へ駐在している地方公務員等を対象に、定期的に行われているクレアソウルセミナーについてご紹介したいと思います。

(1) クレアについて

まず、クレアについて説明します。一般財団法人自治体国際化協会（Council of Local Authorities for International Relations (CLAIR: クレア)）は、地域における国際化の気運の高まりを受け、こうした動きを支援し、一層推進するための地方自治体の共同組織として1988年7月に設立されました。東京に本部を、各都道府県・政令指定都市に支部を置き、国内ネットワークを整備するとともに、世界7都市（ニューヨーク、ロンドン、パリ、シンガポール、ソウル、シドニー、北京）に海外事務所を設置しています。神奈川県では、国際課がクレアの「神奈川県支部」となっています。このようなネットワークを活用して、自治体の海外における活動を支援し、地域の国際化、外国における地域活性化の方策などについての情報の収集・提供や調査研究を行う一方、対日理解促進を積極的に図るため、わが国の地方自治制度や地方行財政制度を中心とした諸事情を海外に紹介しています。

また、語学指導等を行う外国青年招致事業（JETプログラム）の推進、地域の国際化の担い手となる人材の育成、地域国際化協会への支援などの業務を行っているほか、自治体の姉妹交流をはじめとする国際交流や国際協力活動の支援など、深化・多様化する自治体の国際化施策を支援しています。

(2) クレアソウル事務所について

クレアソウル事務所は、1993年10月に韓国における日本の地方自治体の共同海外事務所と

して設立されました。日本の地方自治体から派遣された職員が駐在し、現地韓国人スタッフと共に、韓国行政安全部や大韓民国市道知事協議会など関係機関とも連携して、国際交流支援等の活動を行っています。また、最近では経済活動サポート事業として、日本の魅力を韓国において発信する事業（韓国人観光客誘致促進事業や物産事業、ブース出展などの活動支援）も行っています。

そして、クレアソウル事務所が行っている活動の1つとして、韓国の地方自治、経済、文化等についての知識向上・理解促進を行い、駐在員のスキルアップを図るため、韓国に駐在する地方公務員等を対象に韓国情勢（政治・経済・観光・物産等）についての講義や、韓国の自治体における先進事例視察などの内容で、年に4回程度のセミナーを開催しています。

そこで今回は、10月に開催されたセミナーの内容をご紹介します。

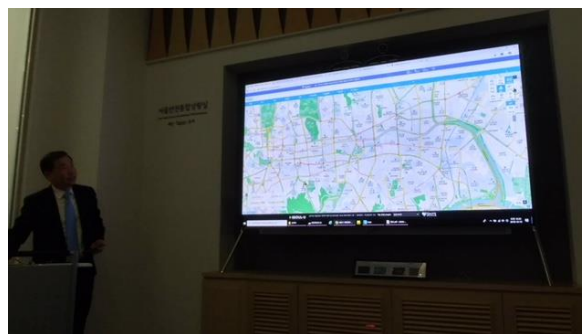
(3) クレアソウルセミナーについて

2018年10月19日（金）、2018年度第二回目のクレアソウルセミナーが開催されました。

今回は「まちづくりと災害対策」をテーマとして、ソウル市内にある関係施設の視察を行いました。また、今年で9回目の開催となる「2018日韓共同セミナー」に参加し、日韓の災害対策に関する講演を聴講しました。

①視察1「ソウル市交通情報センター(TOPIS)」

最初に、ソウル市庁の地下3階にある「ソウル市交通情報センター(TOPIS)」を視察しました。ソウル市交通情報センター(TOPIS)は、2013年に、ソウル市内の公共交通の運行状況、交通量、交通速度、突発的な事故やデモ等の発生状況等、交通に関する様々な情報を把握することで、交通問題の解決を図るとともに、集積された交通情報の分析を通じて、科学的公共交通政策を樹立することを目的に設立されています。集められた情報は、警察、消防、防災機関、路線バスの運行会社等さまざまな機関と情報共有され、交通の円滑化のために活用されています。映像資料によるセンターの紹介後、ソウル市都市交通本部のヤン・ユンゲ事務官から、市内各所に設置してあるカメラ映像を操作する様子や、バスの速度・混雑具合を可視化したモニター映像などの説明を受けました。また、収集した情報を連携機関・事業者（バス業者や運転手など）に伝え、配車間隔等を調整することで、交通渋滞を緩和するシステムを構築しています。



↑韓国における交通網の変遷について説明を受ける様子。(写真左)

※左から2番目に写っている男性は、熊本市の大西一史市長です。この日の午後で開催された日韓共同セミナーで講演をするために来韓されていました。当センター内を参加者と一緒に視察されていました。



↑大西市長を中心に記念撮影

②視察2「清溪川(チョンゲチョン)博物館」

清溪川は、ソウル市内の中心部を流れる小さな川です。朝鮮時代から幾度の治水工事を経ながら、生活河川として存続していた清溪川は、衛生上の問題から1950年代に本格的な覆蓋工事が開始され暗渠となりました。その後、暗渠の上には、清溪路と清溪高架道路が建設されていましたが、老朽化に伴い、社会問題となったことから、2003年には清溪川復元工事が開始され、2005年に清溪川はソウル市民の憩いの場として新しい姿を取り戻しました。

清溪川博物館では、こうした清溪川の歴史の変遷を保存しています。映像による事前学習の後、館員の方の説明を聞きながら、歴史の経過に沿って当時の資料やジオラマを見学しました。



↑現在の清溪川



↑博物館前にて記念撮影

③2018「日韓共同セミナー」

午後には、ソウルの大韓商工会議所で開催された「2018日韓共同セミナー」に出席しました。クレアソウル事務所は、2010年から毎年、韓国地方行政研究院（KRILA）と共同で日韓両国の地方自治体にとって関心の高いテーマについての研究会「CLAIR-KRILA 日韓共同セミナー」を開催しています。9回目の実施となる今回は「日韓地方自治体の災害対策」をテーマとし、熊本市の大西一史市長と韓国・昌原市(チャンウォン)の許成武市長が基調講演を行ったほか、各分野専門家によるテーマ発表、総合討論が行われました。



長嶺安正 特命全權大使による祝辞



熊本市の大西市長の講演では、熊本県の概要説明後、2016年4月に発生し、震度7を二回記録するなど、未曾有の災害となった熊本地震について、当時の被害状況や、今後の防災対策、復興状況等について説明をされていました。

全体を復旧するのに20年かかると言われている熊本城に関しても、復旧は着実に進んでおり、2019年の春に天守閣の外観が復旧する見込みだそうです。



← 韓国南東部に位置する慶尚南道(キョンサンナムド)の道庁所在地である昌原市(チャンウォン)の許成武市長からは、昌原市の概要説明後、気候変動による自然災害の変化と特徴、また、昌原市の台風防災への取り組みについて説明をされていました。

思えば、2018年は日本において、かつてないほど大きな災害が多発した年でした。6月の大阪府北部地震や、西日本を中心に甚大な被害をもたらした平成30年7月豪雨、また、台風による被害も相次ぎ、関西国際空港が浸水被害に遭うなど大きな爪痕を残し、さらには、9月に発生した北海道胆振東部地震では、最大深度7を記録し、道内全域停電が起きるなど、大きな被害をもたらしました。自然災害は、その発生自体を止めることはできませんが、被害を最小限に止める備えがとても重要です。例えば、昌原市の許成武市長の講演では、ビッグデータを活用して国内・外の地方政府間の災害対応広域ネットワーク網を構築し、将来の災害に備えるべきという話がありました。また、テーマ発表された跡見学園女子大学の鍵屋一教授の講演内容では、自治体職員が減り続けている中で公助にも限界があり、これからは地域住民を主体とした「近助」が重要で、日常から人間関係、近所関係を良好にし、魅力ある地域を作ることが災害にも強くなるという、「魅力増進型」の防災について提唱されていました。今後、誰も予想できない災害の到来に向けて、このように、日韓の両国が知恵を出し合い、その対策について議論していく事はとても重要だと思いました。

(4) その他の国際的な行事について

クレアソウルセミナーについては、日本から派遣されている地方公務員等を対象としていますので、参加者は日本人の方だけですが、韓国内では他にも、日本だけでなく、他国の公務員の方々も参加する国際的な行事があります。私がこれまで参加した中で、同じく10月に、韓国・江原道(カンウォンド)の北東部に位置する束草(ソクチョ)で開催された、「2018 韓・日・中 公務員3国協力ワークショップ」についても少しご紹介したいと思います。

○2018年10月25日(木) 「2018 韓・日・中 公務員3国協力ワークショップ」



↑ 韓国・外交部主催(※日本の外務省に相当)のこの行事は、2012年から始まり、今回で6回目を迎えるそうです。国際協力業務を担当する地方政府所属の韓国の公務員と、韓国で勤務または研修中の日本・中国の公務員の方々約90名が参加しました。この行事では、3カ国協力関連の講演や、代表8名の公務員による、地方政府レベルの3カ国協力事例発表、3カ国の伝統楽器で構成された公演等が行われました。

↑ 日中韓三国協力事務局(TCS)の李鍾憲事務総長による、「3カ国協力の過去と現在および未来」に関する講演の中で、地方政府レベルにおける3カ国間の交流の先進事例として、神奈川県と京畿道、遼寧省の三県省道の取組みについて紹介されていました。

代表 8 名の公務員による 3 カ国の協力ケース発表において、私も代表の 1 人として、神奈川県と京畿道、遼寧省の三県省道ネットワークにおける、青少年スポーツ交流や友好県省道交流会議、職員交流など様々な事業を通しての交流の取組みについて説明しました。→

※ 同時通訳で行われたため、発表は日本語で行いました。



↑ 韓・日・中の公務員の方々が大勢いる前での発表はさすがに緊張しましたが、日本だけでなく、韓国、中国の多くの公務員の方々へも、神奈川県の取組みを PR することができ、とても貴重な経験となりました。



↑ 3 カ国の伝統楽器による、アリラン等の演奏が行われました。

今回、参加したこの行事においては、日本の公務員の方々だけでなく、多くの韓国、中国の公務員の方々とも交流することができました。日本、韓国、中国、この 3 カ国間においては、国と国の関係では、いろいろな問題も報道されますが、地方自治体同士の交流については、とても盛んに行われているということ、あらためて実感することができました。

私が特に印象に残っているのは、この日の行事の冒頭で、韓国の延世(ヨンセ)大学の金基正教授が“北東アジア域内の協力関係”をテーマに講演された内容の中で、「私達は北東アジア人としてのアイデンティティーを持つことが大事」という内容でした。

今年に入り、南北首脳会談や米朝首脳会談の開催など、朝鮮半島を巡る情勢が大きく動いています。今、朝鮮半島の平和が重要であり、また、その周辺国同士が良い関係を築いていくこともとても重要です。そのためには、自分の国だけを考えるのではなく、「私達は北東アジア人だ」という意識を持つことが大事だということです。

3 カ国間で、地方自治体レベルでの交流において、北東アジア人としての意識を持って取り組んでいくことが、3 カ国の地方公務員間の緊密な人的ネットワークを構築するきっかけとなり、国と国の問題を乗り越えて、平和的な友好交流のさらなる発展に繋がっていくということでした。